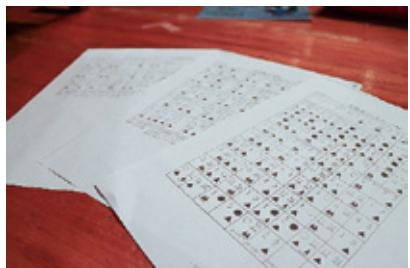


## #潮来ばやし #受け継ぐ音色



## #いたこ推し

Vol.5



1枚の楽譜に太鼓や笛、それぞれのパートが記載されています。  
楽譜はあるものの音や体で覚えていきます。

この伝統を未来へつなぐ取り組みのひとつが、潮来ばやし子ども教室です。中心となつて活動しているのは、潮来ばやし保存会の皆さん。先生たちは潮來を愛し、潮来ばやしを愛してきた地域の人たちです。「この音を次の世代へ残したい」「子どもたちに、ふるさとの誇りを感じてほしい」。その思いが、日々の指導に込められています。

この伝統を未来へつなぐ取り組みのひとつが、潮来ばやし子ども教室です。中心となつて活動しているのは、潮来ばやし保存会の皆さん。先生たちは潮來を愛し、潮来ばやしを愛してきた地域の人たちです。「この音を次の世代へ残したい」「子どもたちに、ふるさとの誇りを感じてほしい」。その思いが、日々

潮来には、まちの人々の暮らしどともに受け継がれてきた音があります。茨城県指定無形民俗文化財「潮来ばやし」は、平安時代に田楽や里神楽を起源とし、江戸時代には山車曳きとともに奏でられるようになりました。水郷・潮来の夏を彩る音色は、今も潮来祇園祭等で演奏され大切に守られています。潮来祇園祭では、各地区が思いを込めた豪華絢爛な山車に芸座連が乗り込み、太鼓や笛の音がまちに響き渡ります。山車がくる時、曲がる時、おわる時等、場面に応じ曲目が変わり、その音が祭りの流れをつくります。潮来ばやしは、祭りの高揚感とともに、人々の記憶やふるさとの思いをつないできました。

# 潮来ばやし子ども教室

市内の小学校では地元の伝統文化を継承するため、授業として潮来ばやしの体験が行われています。体験で興味を持った子どもたちが、「楽しかった」「またやりたい」と教室に足を運びます。

使用する楽器は高価なものです。各囃子連や補助制度の協力により、子どもたちが本物の音に触れられる環境が整えられています。

教室に集まるのは、小学3年生から6年生の子どもたち。最初は緊張しながら楽器を手にしていた子どもたちも、音を重ねるうちに少しづつ表情が変わっています。うまくいかない時には、先生たちが優しく声をかけ、うまく音がでた瞬間に一緒になつて喜びます。そこには、技術だけではなく、潮来で生きてきた人たちの思いや温かさが自然と伝えられています。



「きれいな音が出ると嬉しい」「みんなで演奏すると楽しい」。子どもたちの言葉からは、人と人とのつながりの中で伝統が育まれていくことが感じられます。こうした体験が、将来、地元に住み続ける理由になり、また一度離れても潮来に帰つてくるきっかけになつてほしい。子どもたちに寄り添い、伝統を伝える先生たちもそんな思いを胸に活動をしています。

学校と地域が一体となり、

音を通して人がつながる新しい継承のカタチが動き出しました。潮来ばやしは、世代を超えて人を結び、ふるさとへの思いを未来へとつないでいきます。

次回、潮来ばやし子ども教室の演奏披露は「水郷いたこ雛巡り」3月1日(日)11時から、場所は水郷潮来あやめ園で行われます。子どもたちが奏でる、潮来ならではの音色をぜひお楽しみください。